

伝統芸能

受け継がれる芸術と技能の息吹

西原町では各地でさまざまな伝統行事・芸能が息づいており、世代を超えて今に伝えられています。また、かつての行事や芸能を掘り起こし、新しいスタイルで伝えようとする試みも各地で展開されています。

Traditional Arts

~The blood of arts and performance skills passed down through generations~

Each area of Nishihara has unique traditional events and performing arts which continue to be passed on from generation to generation. Old festivals and performing arts have also been revived and each district is seeking ways to pass on old traditions with a new style.



新作組踊 「内間御鎖金丸」



内間金丸は、伊是名生まれの百姓出身だが、頼まれな知恵者、人徳優れた賢徳な人物として、尚泰久王をはじめ、多くの役人及び民百姓から慕われ、尊敬され、「天使金丸」と言われるほど評判だった。

新作組踊「内間御鎖金丸」は、西原町文化協会が西原町と緑の深い第二尚氏の始祖、内間金丸(後の尚円王)をテーマに、平成10年度に西原町戯曲大賞の公募を行い、その大賞に輝いた宮良邦夫氏の「天使金丸」を、勝連繁雄氏が組踊に脚本化したものです。その組踊は、西原町文化協会が中心となり、西原町民によって演じられているものです。今後、本町の文化・演技活動をより一層発展させるものとして期待されています。



獅子舞

獅子舞は旧暦6月から8月にかけての豊年祭や旧盆に行われる。獅子を舞わせることによって悪霊を払い、世界観(ユカフ)を招くことで五穀豊穡と地域の繁栄を祈願する。ワクヤーがドラや太鼓、ホラガイで誘い出し、棒と戯れたり、まり遊びなどの独特な技を演じさせる。



網曳(チナヒチ)

五穀豊穡や害虫駆除、ヒーゲーン(火返し)などを祈願する神事で、現在でも多くの地域で行われており、大きな年中行事の一つ。旧暦の6月15日に行われるウマチー網、23日から24日に実施されるコンセー網、そして25日のウファチ網などに分類される。



旗頭

綱曳の士気を高めるために繰り広げられる旗頭、鐘の音や掛け声に合わせて高々と持ち上げた旗を上下させ、棒を持った男性陣がその周りを囲みます。旗頭の全長は24尺(7.3m)、重量は50~60kgにもなるため、バランスを取るのが難しく、男衆は風を読み、腕を見せ、勇壮活発な力を披露します。



棒術

小波津区で継承される伝統の棒術は、毎年旧暦8月15夜の際、御嶽や拝所の前庭で青年らが棒術を披露する。獅子舞と同じく、その威勢によって災厄が滅されると信じられており、小波津地区では豊作を祈願し演じられる。



小波津7年まーる村遊び

小波津区で6年おきの卯年と酉年に催される伝統行事。明治のころから地域の豊年祝いとして開催されている。一時途絶えていたが、平成17年に復活を遂げた。



棚原12年まーるあしび

酉年の旧暦8月15日に棚原区で行われる、12年に1度の伝統行事。豊穡の神「ミルク加那志(ガナシ)」の誕生を祝い、遊び庭(アシビナー)でのミルクドゥイの後、豊年と平安を祈願し、琉舞や組踊が披露される。